

個々の問題の出題の意図及びその正答率

理科 小学校 第5学年

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点			正答率
	大問	小問	通番		科学的な思考	観察・技能・実験の表現の	知識・理解	
A 生物とその環境	1	1	1	発芽の条件について、結果を比較して考えることができる。				61.0
		2	2	肥料のあるなしにかかわらず、インゲン豆が発芽するという結果から、発芽するためには肥料が必要ないことを説明できる。				37.0
		3	3	調べたいことをはっきりさせ、変える条件と変えない条件をはっきりさせて実験を行うことができる。				60.7
	2	1	4	インゲン豆の種子の発芽前と後の変化の様子がわかっている。				62.5
		2	5	実験結果から、種子の中の養分が発芽のために使われていると考えることができる。				46.1
		3	6	発芽前後のインゲン豆の種子にヨウ素液をつけた時の結果がわかっている。				60.2
	3	1	7	ヘチマは受粉によって実ができることがわかっている。				85.6
		2	8	おばな、めばながある植物の受粉のしかたについてわかっている。				84.4
		3(1)	9	けんび鏡の安全で正しい使い方が身に付いている。				91.4
		3(2)	10	けんび鏡の使い方の手順が身に付いている。				73.1
	4 選択	A B	11	メダカの卵の様子の変化がわかっている。 お母さんのおなかの中にいる赤ちゃんの様子の変化がわかっている。				87.6
			12	メダカは、卵から養分をとり入れて成長することがわかっている。 赤ちゃんは「へそのお」から養分をとり入れて成長することがわかっている。				85.9
B 物質とエネルギー	5	1	13	てこを使った実験で、変える条件と変えない条件を区別して実験する方法が身に付いている。				53.2
		2	14	てこを使った実験で、てこに加える力の大きさの大小がわかっている。				59.5
		3	15	支点から力点までのきよりが長いほど、加える力は小さくなることがわかっている。				56.1
		4	16	てこをかたけるはたらきが同じになるときのきまりをもとに考えることができる。				85.4
		5	17	身の回りのてこのはたらきを使った道具についてわかっている。				89.0
C 地球と宇宙	6	1	18	気温をはかる正しい方法が身に付いている。				76.5
		2	19	気温をはかった結果をグラフで表すことができる。				76.3
		3	20	一日の気温の変化の記録と天気に関連づけて考えることができる。				82.0
		4	21	一日の気温の変化と天気に関連づけて説明することができる。				54.3
	7	1	22	実際の川の様子とモデルの川を比べて考えることができる。				89.6
		2	23	水の流れる速さのちがいを調べる方法が身に付いている。				49.5
		3	24	流れの内側に土や石がたまる理由を、流れの速さと量から考えることができる。				65.6
		4	25	川岸をコンクリートで固めたり川底にブロックをうめたりする目的を、災害を防ぐこと関連づけて考えることができる。				79.4